

## 『複雑性腹腔内感染症に対する国際的疫学調査（CIAOW study）』

腹膜炎（虫垂炎や消化管穿孔）などの腹腔内感染症には手術と抗生剤が必要な重症な時があります。手術と抗生剤が必要な腹腔内感染症を『複雑性腹腔内感染症』と呼びます。重篤な複雑性腹腔内感染症による死亡率は医療機器の進歩、手術器具の向上や抗菌薬治療の進歩にもかかわらず、非常に高いままです。複雑性腹腔内感染性に対する診断、感染源コントロールの手術内容、起因菌やその耐性化率に対する国際的な疫学的調査がありません。そこで、緊急手術に関する国際的な学会（WSES ; World society of emergency surgery）が国際規模で疫学的調査を行うことになりました。

本研究の目的は複雑性腹腔内感染症に対する、①腹腔内感染症の診断名、②実際に行った感染源コントロールの診療、③腹腔内感染症の微生物学的検査を世界的な規模で把握、理解するプロフィールを作成することです。現在の世界的な規模で市中感染性もしくは院内感染性の複雑性腹腔内感染症に対して、臨床的、微生物学的、治療による関連性を把握、理解することが国際標準治療を確立するうえでも非常に重要です。

倫理委員会承認後から 2013 年 3 月までに当院で腹腔内感染症にて手術・処置を行う患者さんについて、診断名、手術もしくは処置の内容、感染症の起因菌、カルテを用いて予後との関連を調査します。データの集計にあたっては匿名化の後にいき、患者さんの個人情報を公開することはありません。また個人を特定できる情報を施設外に提供することはありません。研究対象とならないことを希望する際には当教室に連絡すれば、情報の削除が可能です。この研究の主研究機関は千葉大学医学研究院救急部集中治療医学です。問い合わせは千葉大学医学部附属病院救急部・集中治療部までお願いします。（研究担当：幸部吉郎）